横浜市立大学学術情報センター

貴重書
月替わり展覧会リーフレット
（１４４）

2023 年９月の作品は

「東海道五十三駅並伊勢参宮道中図」

―江戸末期の旅行パンフレット―

展示テーマ

～江戸末期の名所案内図～

この地図は、題名通り、伊勢参宮道中の東海道駅の旅行案内図である。もともと伊勢参りは、江戸時代中期以降、大阪の町民らの間で盛んになった伊勢神宮を目指す旅のことで、参拝者は年間数百万人との史料もある。一生に一度はお伊勢参りをするものという通念を、今でも聞いたことがある人は少なくないだろう。江戸の時代の旅、と言えば伊勢参りというほど人気の高い旅だった。

東海道という名前も今でもよく耳にする。歌川広重『東海道五十三次』（1834～1835 刊）や十返舎一九の『東海道中膝栗毛』（1802～1809 刊）で知られる、江戸時代に整備された五街道の一つだ。道中には風光明媚な場所や有名な名所旧跡が多く、東海道を通って伊勢参りをした人々は伊勢神宮だけでなく道中も楽しんだに違いない。

東海道を通って伊勢参りをする当時の人が通る駅並や情景図のある地図を見ることで、当時の人々の伊勢参りの様子をこの作品を通じて分析していく。

国際教養学部国際教養学科

「東海道五十三駅並伊勢参宮道中図」（1 枚）

江戸末期

作者：［岡田］春燈斎鐫（生没年不詳）

縦 10 ㎝×横 16 ㎝　枠:9ｃｍ×15ｃｍ

この作品は江戸末期の岡田春燈斎による日本地図である。右下の「神都内外宮」と題された情景図の「神都」は、伊勢神宮のある三重県伊勢市の異名であることから、伊勢神宮の情景図とわかる。

また、右上の「東都日本橋」の情景図が出発地であり、左上の「皇都御内裏」の情景図が京都御所を指すと考えられるため、終点地だと捉えられる。時代については、左下の「仁都天保山」の情景図に多くの船が描かれている事から、この地図は江戸末期のものだと推測できる。当時の天保山と日本橋の様子を歌川広重(1797-1858)の作品を通じて裏のページに紹介する。

(諸国名橋奇覧 摂州阿治川口天保山)
The British Museum. Collection.
https://www.britishmuseum.org/collection/object/A_1937-0710-0-187
(2023/07/20)

左は歌川広重の「摂州阿治川口 天保山 大阪」（諸国名橋奇覧 摂州阿治川口天保山）である。

「天保山は淀川の河川整備で出た土砂で作られた人口の小山。海に近い安治川（阿治川）の河口にできたため大阪湾を一望でき、行楽地として賑わいをみせた。本図は橋の絵というよりは、パノラマ的な画面を意識して作られたものであろう。」

（東京伝統木版画工芸協同組合作品紹介文より引用）

また、右は歌川広重の「東海道五拾三次之内　日本橋 朝之景」である。見たことがある方も多いだろう。

「現在の東京都中央区にあたる。東海道の起点・日本橋の朝の景色。朝焼けを背に大名行列が橋を渡り始める様子が窺える。先箱持ちを先頭に毛槍と続き、陣笠の従士たちが整然と列をなしている。手前には魚河岸（うおがし）から帰った魚屋や野菜売り、犬の姿を見ることができる。」

（東京富士美術館作品詳細より引用）

(東海道五拾三次之内　日本橋 朝之景)
東京富士美術館．収蔵品．
https://www.fujibi.or.jp/our-collection/profile-of-works.html?work_id=1172 (2020/07/26)

展示のみどころ
～天保山と日本橋の情景図～

この地図に類似した地図の多さから、伊勢参りを目的とする旅人は多かったと考えられる。この地図では端に 4 つの情景図を載せることで伊勢参りの道中及び回り道の様子を伝えている。これらの情景図は現代でいう旅行パンフレットの中の写真のような要素を感じる。特に右図はこの本地図左下の天保山情景図の拡大図である。この時代を象徴する大阪でも有数の行楽地であったため、人々の関心を集めたと考えられる。

作品紹介でも例に挙げた歌川広重の「摂州阿治川口 天保山 大阪」と比べて考察するのも面白い。歌川広重は天保山の全体を描いた一方で、本地図では海に面して手前の船が進んでいく様子をあらわしている。これは地図を見ているものにより臨場感を感じさせる構図であるといえる。

左図は本地図右上の日本橋の情景図の拡大したものである。これも歌川広重の「東海道五拾三次之内　日本橋 朝之景」と比べると面白い。「東海道五拾三次之内　日本橋 朝之景」は橋を渡る人や動物について詳細が描かれているのに対し、本地図の情景図では人通りが多い橋全体と下には川、その奥に富士が見える構造になっている。１つの地図に多くの要素を詰めこむことで旅をする人を引き付けようとしたと考えられる。

参考文献

・東京都木版画工芸協同組合オンラインショップ「摂州阿治川口　天保山　大阪」https://edohanga.jp/unusual_views_of_celebrated_bridges_in_the_provinces/mount_tenpo_in_ajikawa_settsu_province/(2020/07/26)
・東京富士美術館作品詳細「東海道五拾三次之内　日本橋　朝之景」https://www.fujibi.or.jp/our-collection/profile-of-works.html?work_id=1172(2020/07/26)
・横浜市立大学古地図データベース「東海道五十三駅並伊勢参宮道中図」http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~ycu-rare/views/WC-0_132_06.html?l=1&n=236(2020/07/26)

あとがき　～貴重資料に触れて～

私は旅行パンフレットを見るのが好きなので、この作品を調べることは純粋に楽しかった。作者の意図によって描き分けられる構図の分析をしていくうちに自分も旅がしたくなってきた。実際に 4 つの情景図で描かれている場所の今をこの地図と見比べながら旅するのも、ただ旅するより面白そうだ。夏休みには近場から頑張って当時の人のように徒歩で旅してみようと思う。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、展示品を除き申請が必要です。また、利用は学術研究目的に限らせていただきます。

令和５年９月１日発行
令和２年度 日本文化論 A/日本文化史 B
受講生 編集
236-0027　横浜市金沢区瀬戸 22-2
横浜市立大学　学術情報センター